

第3回いなべ市議会報告会報告書

日 時 令和元年11月16日(土) 午後2時～午後3時40分
場 所 いなべ市役所 シビックコア棟 研修室2、3、4
参加者数 30名
事 項 第1部 議会報告
第2部 意見交換(防災、男女共同参画)

1 議会活動報告

■令和元年度第3回定例会報告(水谷治喜予算決算常任委員会副委員長)

- ・いなべ市の平成30年度決算について
- ・新庁舎建設事業及び周辺施設整備事業について

■各常任委員会・分科会の活動報告(小川幹則総務経済常任委員会委員長)

(新山英洋都市教育民生常任委員会委員長)

- ・平成30年度決算審査における施策・事務事業評価

■質疑応答

- Q 緊急避難場所整備事業について、どういった目的(使用方法)でつくられたのでしょうか。(藤原町・女性)
- A 市役所の西側に、災害時に広域で避難を受け入れられることと、市民の避難場所として整備している。また、災害時に支援を受け入れる際の受け入れ場所として整備する。平時は、消防団活動などで活用する。また、備蓄倉庫も整備する。(小川幹則委員長)
- Q 避難所ではなく避難場所ということか。
- A 避難所に関しては、各小学校など地域に設置されている。
- Q 人口減少が心配される中、行政サービスに直結する予算が心配である。市税、その他収入について増えたと説明があった。推移はどうなっているか。
- 市民サービスを充実させるために議会内でどういった意見が出たか。(菰野町・男性)
- A 市民サービスを充実させるための議論は、各論でなされた。ここで全てをお答えすることは難しい。
- 人口については、員弁町は人口が増えている。大安町は現状維持。北勢町は少し減少。藤原町が大変減少。そのような中、いなべ市ではグリーン・ツーリズムを推進しており、どのように維持していくかについては議論された。(清水隆弘委員長)
- A 市民税の推移について、平成21年度は85億6,000万円。平成26年度は98億7,000万円。平成27年度、85億6,700万円。平成28年度、91億7,100万円。平成29年度、89億3,100万円。平成30年度が95億9,300万円。(水谷治喜委員長)
- Q 福祉バス運行事業について、福祉バスに限らず交通難民の方の交通手段を確保する手段において、いなべ市と議会はどういった方向性を持たれているのか。私の分析によると福祉バス運行事業への予算の割合が10年間で減少していると認識している。そこにつ

いてどのようにお考えか。バスを増やすとか、路線を増やすとかの考えは。

東近江市で11月中旬から永源寺でレベル2の自動運転の実証実験があると思うが、市は踏み込む考えはないか。(北勢町・男性)

A 福祉バスに関しては、免許証返納を促進する中で、交通弱者、買い物弱者が発生するのでニーズは増える。福祉バスはこれから大事な交通手段になってくる。

自動運転については、貴重なご意見としておうかがいしておきたい。委員会で調査する中で、シルバー人材センターでもドライバーが不足している。理由として、企業などが定年延長を行い、シルバー人材へ登録する人が減っている。運転手の確保が難しくなっている。将来的に、民間委託や自動運転についても議論をする材料にはなり得る。(新山英洋委員長)

2 意見交換

【防災1】担当:小川幹則議員、種村正巳議員

◆最初に参加者で出し合った、話し合いたい内容。

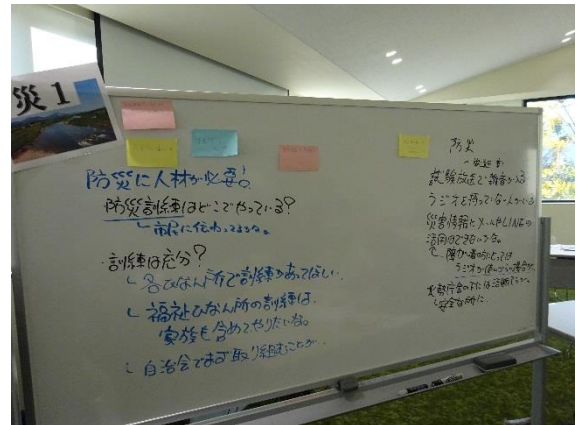
- 福祉避難所開設までの流れが必要
- 防災訓練について
- 自主防災組織
- 要支援者の名簿作成について
- 防災訓練について
- システムについて

◆防災行政無線などの伝達システムについて

- 試験放送で雑音が入って聞こえる。
- ラジオを持っていない人がいる。
- 災害情報にメールやLINEの活用はできないか。
→ ラジオから聞こえる大きな音を拒絶する障がい者もいる。
→ 障がい者にとっては、ラジオが使いづらい場合がある。
- 北勢庁舎の下には活断層がある。安全な所で運用してほしい。

◆防災訓練などソフト面について

- 防災には人材が必要！
- 防災訓練が「いつ・どこで」行われているか、市民に伝わっているか。
- 防災訓練は十分？各避難所で訓練があってほしい。
- 福祉避難所の訓練は、障がい者とその家族も含めてやりたい。
→ 各施設では行われているけど...
- いざとなると、まず自治会単位で取り組むことが多いと思う。



【防災2】担当:岡 恒和議員、位田まさ子議員

◆最初に参加者で出し合った、話し合いたい内容。

●災害に対する不安の中身はそれぞれ。発信される情報をどう取るか。発信は十分か。

●それぞれの住まいで不安に思っていることが聞きたい。

●地域を守ることの具体的な行動とは。

●先の災害で、避難所も停電したので不安。

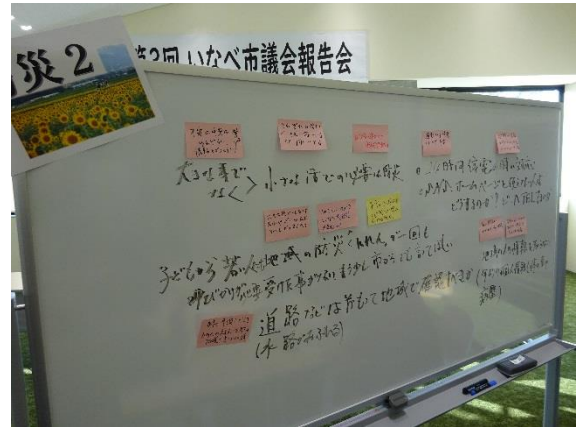
●災害時の情報を入手できない人がいる。どうする？

●これでいいのか？いなべ市の防災。不安だらけ。

●災害が多い年だったので関心が深い。体が心配。

●市と地域のかかわり。個人情報など。

●災害が起きる時間帯がわからない。それぞれの対応を考える必要が。



◆防災訓練のやり方

●子どもから若い人、地域の方全員で防災訓練に取り組む呼びかけも必要ではないか。

→ いつも同じ人だけが参加する傾向がある。すぐにでもやっていただきたい。

●水路を含め道路の状況も地域で確認して、ハザードマップを自治会単位で作成してもいいのでは。

→ 市任せなどところがある。地域によって起こり得る災害が違うと思う。

→ 予想できることは防げるのでは。

◆情報伝達について

●SNS、ホームページを活用できない人もいる。そういう方への情報をどうしたらいいのか。

●情報が伝わらない人は不安。

●停電が起きた時に、どの地域が停電しているのか、いつ復旧するのが不安になる。

→ 不安を取り除くことが大事で、情報収集をどこへ聞けばいいのか、情報収集の手段についても自治会でまとめていくのがいいのではないか。

●災害はいつ起こるかわからない。ひとり暮らしの方の把握はしていても、昼間、家族が出払っていてひとりになる方もたくさんいるので、時間ごとの訓練も必要ではないか。

●避難時に弱者となられる方の情報(病気、障がいなど)を自治会で把握しておく必要もある。

【防災3】担当:篠原史紀議員、岡 英昭議員

◆最初に参加者で出し合った、話し合いたい内容。

- 女性とか子どもを連れていると、発災した時にどうやって避難すればいいかわからない。
- 実際に訓練をしていないから危機感を持っていないのじゃないか。

◆避難訓練について

- 今まで地震を想定した訓練はやっているけど、最近は豪雨災害が多い。
- 豪雨災害に対する避難訓練はあまりやっていない。
- 学校や保育園ではやっているが、自治会単位や市全体ではやっていない。
- 学校とか保育園とかかわりのない人は訓練をしていないのでは。
- 東員町は23自治会すべてに自主防災組織がある。いなべ市の場合は119自治会のうち63組織しかない。
 - 自主防災組織があっても訓練が行われていない。
- 東員町では、総合的な訓練をやっているが、すごく漠然としていて、自治会単位でやるべきじゃないか。
- 自治会の主体は高齢者になっている。若い世代の方は自治会のことはよくわからない。
 - 高齢者と若い世代の交流が必要じゃないか。
 - 交流できるしくみづくりをやっていかないと、自主防災組織をつくっても理解し合えないから避難することができない。
 - まずは交流から始めていきましょう。



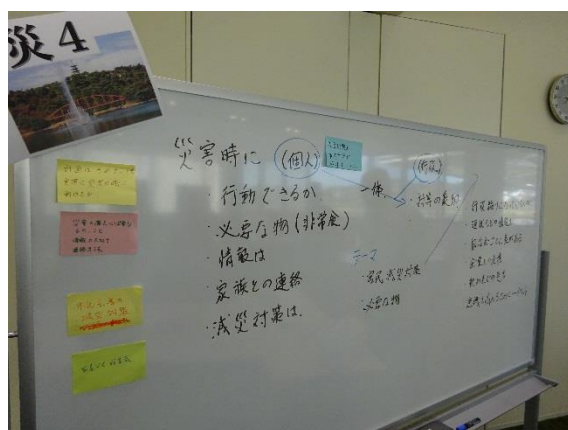
【防災4】担当:神谷 篤議員、水谷治喜議員

◆最初に参加者で出し合った、話し合いたい内容。

- 計画はされていても、実際に災害の時に動けるか。
- 災害の備えに必要なもの、こと。
- 情報の大切さ、連絡方法
- 市民主導の防災対策
- 家庭でも非常食
- 災害対策を市内全体に広げるには

◆官民減災対策

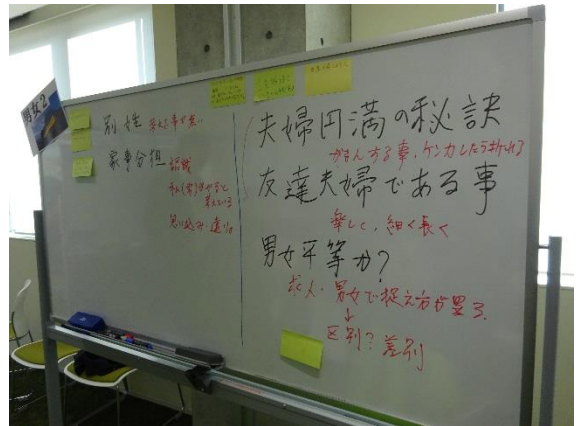
- 市民へ周知を図るために、イベントを企画したらどうか。
- 行政頼りになっていて、備蓄品に何があるかもわからない。 → 意識をもって確認していく。
- 災害がいつ起こるかわからないので、職場(企業)とも連携を図りながら、災害発生時に現状がわかるような協力をしていきたい。



【男女1・2】担当：西井真理子議員、伊藤智子議員、新山英洋議員

◆最初に参加者で出し合った、話し合いたい内容。

- 社会・家庭においてすべて男女は平等だと思いますか？
- ご夫婦うまくいっている秘訣は
- 男女差別と区別の違い
- 家事は女性の仕事という認識がまだある
- 別性
- 家事分担(体調が悪い時の皿洗い)



◆夫婦円満の秘訣

- 女性からすると、がまんをする事、ケンカしたら折れる事。
→ 大事なものは、友達夫婦であること。いつまでも対等な距離感を保っていくことが大事。

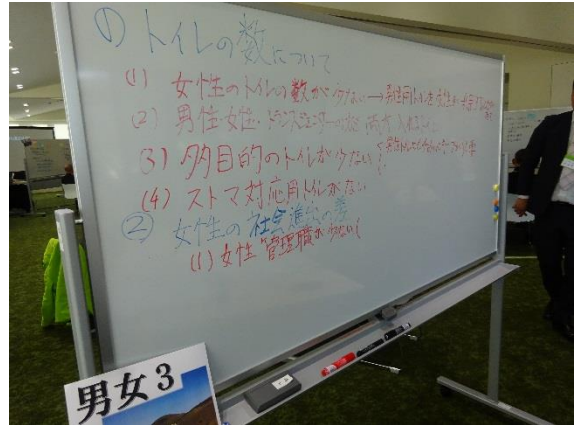
◆男女平等か？

- 仕事の求人などで、男女で捉え方が異なる。
→ 区別？差別？
- 夫婦別性
→ 夫婦別性は考えたことがない。
- 家事分担
→ 女性の方がよりやっているのではないか。
→ 女性側からの認識として、妻がやらなければいけないと考えている。
→ 男性に対しての遠慮がまだまだあるのではないか。

【男女3】担当:片山秀樹議員、鈴木順子議員

◆トイレの数について

- 女性のトイレの数が少ない
 - 男性用トイレを女性が利用することがある
- 男性、女性、トランスジェンダーの方も両方入れるトイレ
- 多目的のトイレが少ない
- 男性用トイレにもチャイルドキープが必要
- ストマ対応トイレがない



◆女性の社会進出の差

- 女性の管理職が少ない。
 - 依然として、子育て、介護の女性に依存している。
- 社会の秩序
 - 女性が働き続けられるシステム
 - 事業主に働きかけが必要

【男女4】担当:川瀬利夫議員、衣笠民子議員

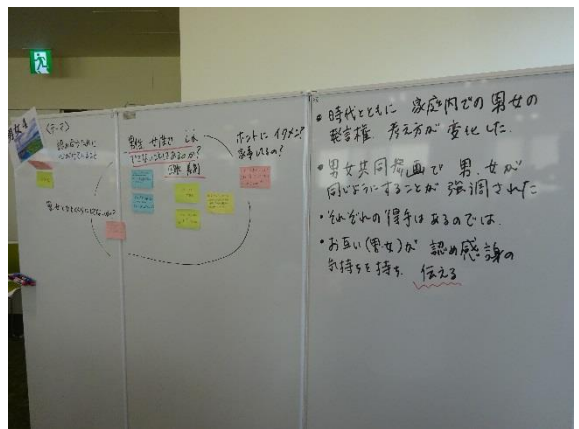
◆最初に参加者で出し合った、話し合いたい内容。

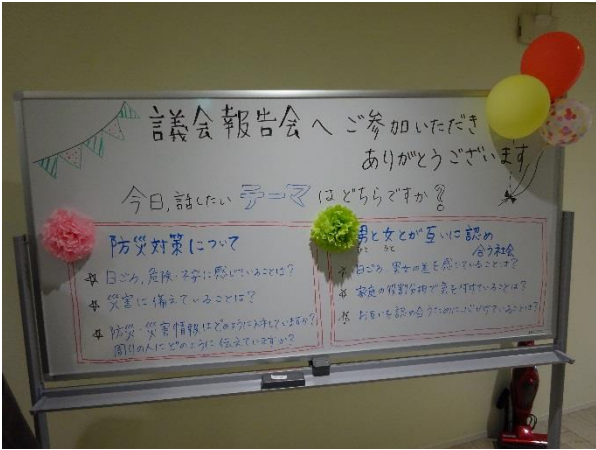
- 男性、女性で“しか”できないことはあるのか？
- 男女差別は許されることではないが、男女の区別は許されるか？
 - 男と女、ひととひととして考える
 - 子どもが5人いるが、どんな事でも母親(娘)には勝てない。

- 劳う気持ちは忘れない。
- なぜ食事ができあがるまで寝転んで待ってられるのか。
- お互いに認め合うために心がけている。
- 感謝

◆男性、女性で“しか”できないことはあるのか？

- 時代とともに家庭内での男女の発言権、考え方が変化してきた。
- 男女共同参画が進む中、男女が同じようにすることが強調された。
 - 区別と差別はどうなのか。
- それぞれの得手はあるのでは。
- お互い(男女)が認め感謝の気持ちを持つことが大事。伝えることも大事。





会場入り口看板



受付



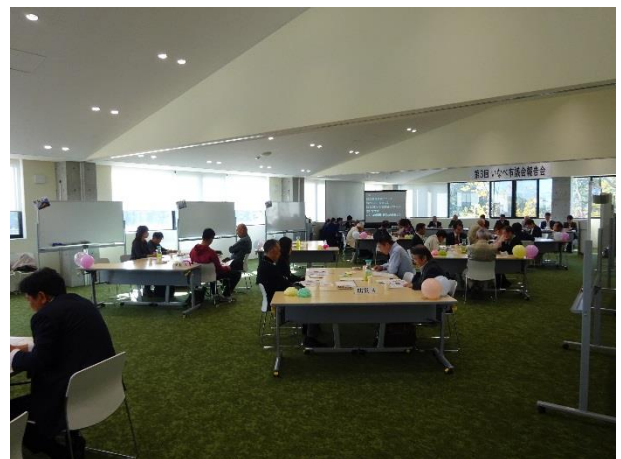
託児室(2名の利用がありました)



要約筆記(参加者から好評でした)



議会活動報告(議長と各委員会正副委員長) 司会は、鈴木順子議選監査委員





各グループで自己紹介から！



各グループで意見を付箋に書いて、ホワイトボードに。



最後に、各グループの発表を行い、会場全体で共有しました。